

祭と神社と故郷と。
祭が紡ぐ不思議なご縁

私は阪急宝塚線服部天神駅
から東南へ約1.5キロメートル
の豊中市浜に生まれ、小・中・
高・大学・社会人を含めて33
年間を豊中で過ごしました。
大学卒業後に入社したのは、
後に造船から事業転換して環
境装置メーカーとなった日立
造船。入社後10年にして初の
転勤先がシンガポールで、生
まれて初めて地元を離れるこ
とになりました。家族とともに
に赴任し、8年を経て東京へ
帰任、51歳で再び大阪勤務と
なり今日に至っています。

京に残し、以来26年間大阪
東京間を往復する生活を続け
ています。生活の拠点は自然
と家族がいる東京になり、33
歳で地元を離れてからほとん
ど思い出す機会はなかったの
ですが、ある機会に「人は自
分の意識とは関係なく誰しも
地元と強くつながっているの
ではないか」と感じるようにな
りました。そのことについて
お話ししたいと思います。

で獅子舞を奉納後、獅子舞が
地域の各戸を回り、豊作と人々
の健康を祝うものです。南郷
春日神社は、史跡春日大社南
郷目代今西氏屋敷として平成
21年（2009）2月12日に
は国の指定を受けています。
春日大社の荘園を管理するた
めに来住した荘官・今西氏の
屋敷である同史跡には、「奈良
春日社から遺わされた神鹿の
墓」という言い伝えがある鹿
塚もあり、春日大社との強い
関係を示しています。

ふるかみみのる
古川実 [日立造船株式会社相談役]

昭和18年（1943）豊中市生まれ。市立小曾根小学校、市立第四中学校、府立豊中高校、大阪大学経済学部卒業。同41年、日立造船株式会社に入社。同51年にシンガポール共和国へ赴任するまで豊中市に在任。主に経理畑を歩み経理部長、専務、社長、会長兼社長を経て平成29年（2017）6月から現職。



延2年（1136）、時の関白・
藤原忠通が当時の大和の国の
万民が洪水や飢饉のため大変
苦しんでいたのを憂い、若宮
の神に数々の芸能を奉納し、
丁重にお祭りをしたところ天
下が無事に治まったのが始ま
りと言われています。以来、
その神徳にあやかって、今日
まで一度も途切れることなく
続いています。

このおん祭の重要な役割を
担うのが日使です。関白・藤
原忠通がこの祭りに向かう途
中、にわかに病となり、お供
の楽人に「その日の使い」を
させたことに始まると言われ
ています。以来、今日まで続
く日使の役割は、平成10年か
ら関西の財界人が春日大社か
ら任命を受けており、担った
人物は関白の格式を表す正装
をして、おん祭の中心的な大
役を果たします。私は光栄に
も平成27年880代日使ご奉仕の
大役を仰せつかりました。関
西には多くの財界人がいるの
で、私がこの役目を仰せつか

るとは思いも寄らないことで
ありましたから、これも子ど
も時代、南郷春日神社の秋祭
りでご縁が結ばれたからでは
ないかと考えています。

不思議さを感じると同時に、
一期一会を大事に生きてゆか
ねばと考えています。また、
生まれ故郷があることの幸せ
をつくづく感じています。会
社生活を引退した折には、故
郷の豊中市で、子どもたちに
楽しんだ地元の祭りにまた参
加したいと思っています。

Q. 座右の銘は
何ですか？

A. 『ローマは一日にして成らず。』

大ローマ帝国は長期の努力によって建設された
ように、大事業を完成させるには不断の努力が
大切である例えとして使われることわざである

が、その大ローマ帝国も今は無い。

大事な事は、不断の努力をする者とダーウィン
が言う変化する者のみが生き残るという鉄則で
ある。

新型コロナウイルス後の世界をどう生き抜いて
ゆくのか、その行動が未来を決するであろう。